



「よか町ばい」と 誇れる地域づくりを!

くらとみ たかし
倉富 隆さん

(神奈川県横浜市在住)

北多
久町
出身

郷里である多久市のみなさま、新年おめでとうございます。
ふるさとへのメッセージを市報に掲載させて頂く機会を頂戴し、大変嬉しく思っています。

私は北多久町中山に生まれ、昭和39年に市立北部小学校を卒業しました。中学、高校は佐賀の学校に通いましたが、実家は同小学校の近くで印刷業を営んでいましたので、幼い頃からの思い出は今も新鮮に脳裏に焼き付いています。当時は地域に幾つもの炭鉱が栄え、同級生の多くが近隣の炭住に住んでいました。小学校も児童数が膨れ上がって、新しい学校も増えた時代でした。友達と遊んで回った周辺の川は洗炭の影響で焦げ茶色、沢山の三角ボタ山があちこちに点在しており、放課後に何台ものトロッコが山の斜面をゆっくりとボタを捨てに登っていく様を見ていました。多久の山笠は夏の風物詩、春と秋の聖廟釈菜も子供心に胸がときめいたものです。小学生時代の恩師の先生方のお顔も鮮明に覚えています。もう半世紀程前のことですが、本当にお世話になりました。

多久で数多くの先輩方に育てて頂いた後は、京都外国語大学で語学を学び、卒業後の昭和50年に人事院航空管制官採用試験に合格。国土交通省(旧運輸省)入省後は福岡空港、成田空港等の現場で航空管制業務に従事するとともに、本省航空局等で航空管制関連業務に長く携わりました。中でも、平成13年からタイ王国運輸通信省で2年間勤務しましたが、異文化の社会で得た経験はとても貴重でした。

現在、東京国際空港長として羽田空港の4本目の滑走路供用と国際線定期便の運航開始のプロジェクトを推進してきましたが、多くの関係者のご協力とご支援を頂いて昨年10月に無事その計画を達成することができました。今後は一日約1,000機の発着(国内900機、国際100機)を更に拡大し、首都圏における旺盛な航空需要に的確に応えていけるよう心新たにしているところです。

今は遠くに住んでいますが、これからも多久市の発展と、市民のみなさまがお互いに「よか町ばい」と誇れる地域づくりを進めて頂くことを祈念し、年頭のご挨拶といたします。

▶羽田空港では年間約100回の国賓等の特別機が飛来します。東京国際空港長は、天皇・皇后両陛下をはじめ、これら国賓等の接遇を行うことも大切な役目のひとつです。写真はオバマ大統領来日の際の挨拶風景です



ふるさとに 「初夢」を思う

たなか きみあき

田中 公明さん

(東京都文京区在住)

南多
久町
出身

私は、毎日新聞社東京本社で社会部の編集委員を兼務しながら、中央省庁と地方の情報交流を目的に活動している毎日フォーラム室の責任者として、局次長のポストにいます。

多久市には昨年2件の企業進出がありました。これは市長や幹部が精力的に誘致された結果でしょう。毎日フォーラム室では政策情報誌「毎日フォーラム」を発行し、官庁や企業の情報を扱っています。そうした仕事柄、佐賀県の部長や東京事務所長が訪ねて来られます。県発のニュースの売り込みもありますが、用向きはどうしたら県内に企業誘致できるかという、ヒントも含めた情報の収集です。最近では、県への企業誘致を担当するスペシャリストの募集もあり、その相談もありました。長崎県佐賀町で昨年3月に長崎キャノンが操業を始めたこともあり、負けられないという気概が県や東京事務所にはあります。

誘致には、受け入れる自治体のPRに加えて、人の縁が大事です。大分県になぜキャノンの工場が集中するのか。御手洗富士夫キャノン会長が大分出身だからにほかなりません。小城高の同窓である横尾市長は内閣府地方分権改革推進委員会委員などを歴任され、市の知名度を上げる一方で、人の縁を作っておられます。県内で顔が通用するだけの旧来型の首長ではなく、今は全国区のリーダーが求められています。多久を知ってもらうことは、企業誘致だけでなく、多久の発展に有効な政策を誘導することにもつながります。

市民の中には「市長が外にばかり出かけて何をしているのか」というお叱りもあるかもしれませんが、企業や中央省庁に「多久市」を知ってもらうことが重要なのです。

「新しい工場が稼働して地元雇用があり、そこで生まれた製品が高速道路網で運ばれて行く」。そんな初夢が正夢になるよう何とか応援団になれないものか、僥越ながら年頭に当たり、そんなことを考えました。

メッセージ

で活躍されている4人の方々より多久市民のみなさんへの会(岡田史一会長)の協力で、執筆していただくこと

「関東多久の会」とは

関東在住の多久市出身者または多久に縁のある人たちが結成した団体で、会員は現在約550人。情報交換や親睦の場として、年1回総会を開き、ふるさと多久を語りあい、交流を深められています。